

効果的なグループ討議法

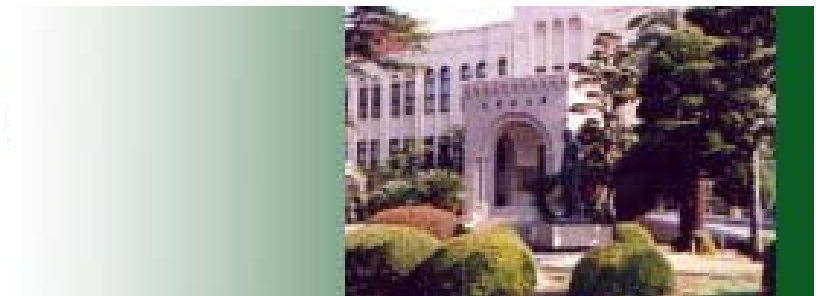
ファシリテーター

岩田好司



久留米大學

KURUME UNIVERSITY



はじめに：研修の趣旨と目標

◆ 趣旨

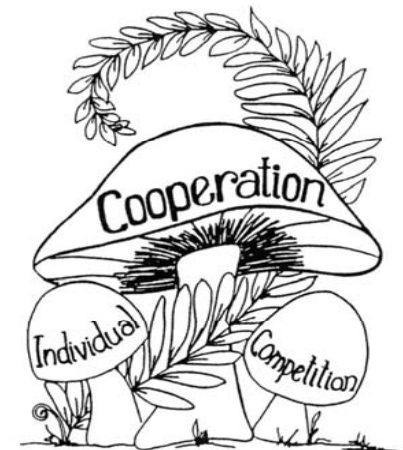
協同の観点から、効果的なグループ討議の仕方、させ方（ファシリテーション）を学び、実践する。

◆ 学習目標

1. 協同に基づくグループ討議の考え方や技法を協同学習（話し合い学習）を用いて学び、理解する。
2. 協同によるグループ討議を実践できる。
3. 身に付けた技法を実際に使って教育ファシリテーション（話し合い、学び合いを促進すること）ができる。
4. 協力して学ぶ効用(喜びや楽しみ)を実感する。

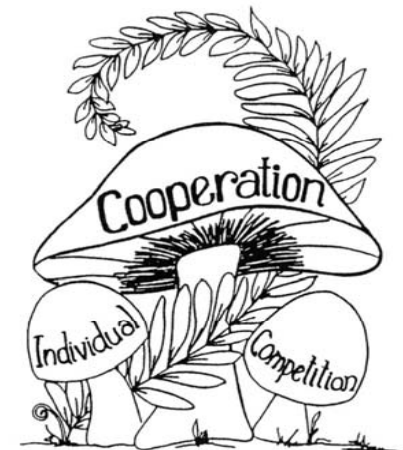
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



1. グループ討議の環境作り

- ❖ グループ編成
- ❖ 仲間作り



グループ編成

- ❖ 教室のアレンジ
 - ❖ 講義形式の配置
 - ❖ グループ学習の配置
- ❖ 何人グループ？
 - ❖ 異質性（多様性訓練）
 - ❖ 知らない男女交互に4人
- ❖ 編成方法

ファシリテーターの自己紹介

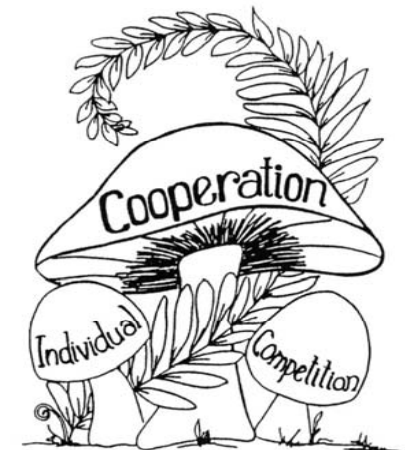
- ◆ 岩田好司（イワタ ヨシノリ）
 - ◆ 所属：久留米大学外国語教育研究所
 - ◆ 教育研究領域：外国語教育学（フランス語）・異文化間コミュニケーション論・協同教育・ホリスティック教育
 - ◆ 住んでいるところ：
 - ◆ 好きな食べ物：
 - ◆ 研修の感想：

仲間作り

- ❖ 手順
- 1. 6人組で行います（①～⑥を決める）。
- 2. 各自、以下の4項目の自己紹介を考える（1分）。A.氏名と所属、B.住んでいるところの紹介 C.好きな食べ物 D.研修の感想
- 3. ペアを作ります。
- 4. 奇数の人が偶数の人に自己紹介します(1分30秒)。偶数の方は、相手の自己紹介を復唱できるようにしておきましょう。メモ禁止。
- 5. 役割を交代します。
- 6. ①の人から順番に復唱します（技法：“ラウンドロビン”）。

研修の見通し

1. ~~グループ討議の環境作り~~
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



2. 協同によるグループ討議

- ❖ 協同によるグループ討議
- ❖ 協同の考え方
- ❖ 協同を促進するための工夫
- ❖ 確認タイム

協同によるグループ討議

協同による
グループ討議

グループ討議

協同の促進
構造化(工夫・仕掛)

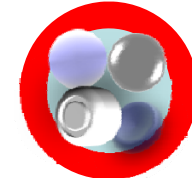
個別、競争、協同：協同の理念 こころ、教室、社会、葛藤解決（話し合い）



[出典] : Johnson&Johnson, Holubec (1988) *Advanced cooperative learning*.

協同を促進するための工夫

- 1) 互恵的協力関係（他のメンバーが目的を達成できない限り、自分の目的も達成できない関係）を生み出す工夫
 - 目標の共有
 - 役割分担（書記、タイムキーパー、励まし係、観察係）
 - 学習資源（情報）の共有
 - 作業自体に埋め込まれた協力
- 2) 個人の責任を確保するための工夫
 - 手順や役割り（ルール）の明確化
 - ランダムに当てる
 - 個別テストを行う

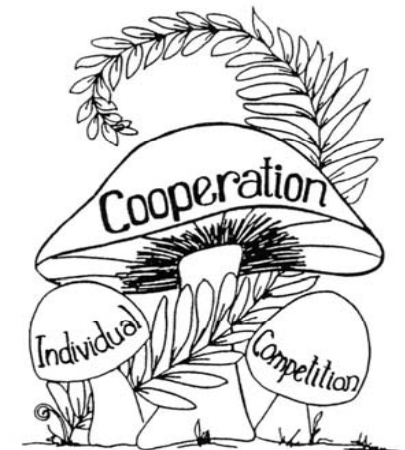


確認タイム

- 課題：「協同を促進するための工夫」を説明する。
 - 手順
 1. 個人思考（1分間）
 - 自分の言葉で説明できるようになる。
 2. 集団思考（ペアで確認、2分間）
 - お互い話し合って理解を深める。
 3. 誰かが話し合いの内容をクラス(グループ) に報告する。
- * 技法 “シンク=ペア=シェア”

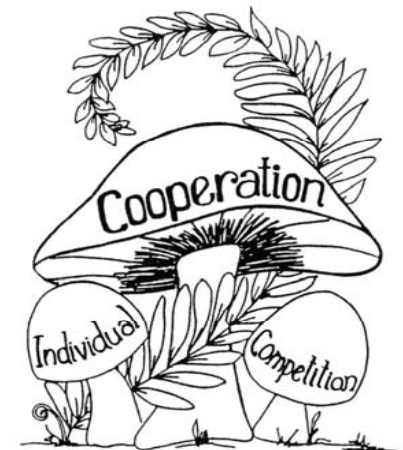
研修の見通し

- ~~1. グループ討議の環境作り~~
- ~~2. 協同によるグループ討議~~
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



3. 協同による意思決定

- ◆ 互恵的討議による意思決定
- ◆ エクササイズ
- ◆ 質問タイム



互恵的討議による意思決定

- コンセンサス法：互いに主張し合い、耳をかたむけ、受容し合い、納得して結論に至る。自分のため、相手のため、みんなのためを考える互恵的=協同的
意思決定。
- コンセンサス法の留意点
 1. 納得できるまで話し合う。意見を変える場合はその理由をメンバーに説明する。
 2. 安易な妥協、取引、統計、多数決はしない。
 3. 自分の意見を通そうとして、異なる意見を排除しない。
 4. 少数意見を尊重する。なぜそう思うのかをよく聴き、みんなで検討する。

* 技法：交互読み、いっしょ読み

エクササイズ

- 課題：次の項目は討議の留意点です。まず、各自、項目の優先順位と理由を思考しなさい。次に、グループの優先順位をコンセンサス法によって決定しなさい。誰が当たっても理由を説明できるように配慮しなさい。
 1. 自分の実感や体験に基づいて対話する
 2. 参加者はすべて対等である
 3. 他者に対する先入観を捨てる
 4. 他者との対立やズレを積極的に見つけ展開する
 5. 自他の意見が変容する可能性に対して常に開かれている

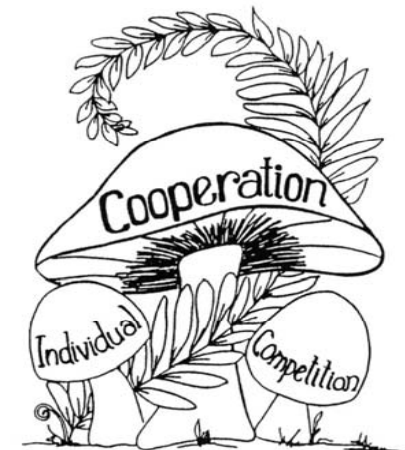
質問タイム*

- 課題：今までのところで、腑に落ちていない点を整理する。
- 手順
 1. 個人思考
 - 腑に落ちていない点をメモする。
 2. 集団思考
 - ペアで話し合う

*技法：“TTT (Team Then Teacher:先生に聞く前にグループメンバーに聞こう)”

研修の見通し

- ~~1. グループ討議の環境作り~~
- ~~2. 協同によるグループ討議~~
- ~~3. 協同による意思決定~~
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



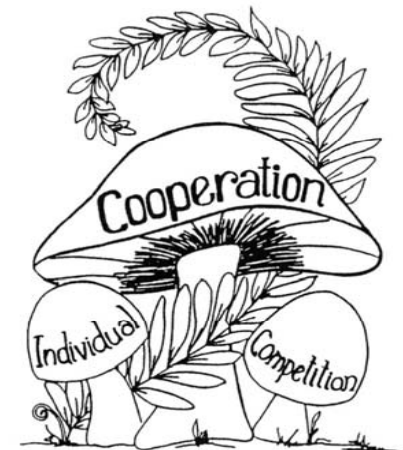
4. グループ討議の実践

- 課題：各人のアイデア（考え）を分類・整理し、最終プレゼンのタイトル（サブタイトル）を決定する。
- 手順：
 1. [個人思考]：自分のアイデア（考え）を書き出す。Post it一枚に一項目。質より量。後でも追加可。
(5分)
 2. [集団思考]：全員でPost itを模造紙上に分類整理していく。まとめりごとに、その内容をもっともよく表す、カテゴリー名をフェルトペンで書く。
(15分)
 3. コンセンサス法を使って、プレゼンのタイトル（サブタイトル）を決定する。(10分)。
 4. プロセスと結果の発表（誰が当たっても発表できるように配慮する）。

* 技法：「アフィニティ＝グルーピング」（バークレイ他, 2009）

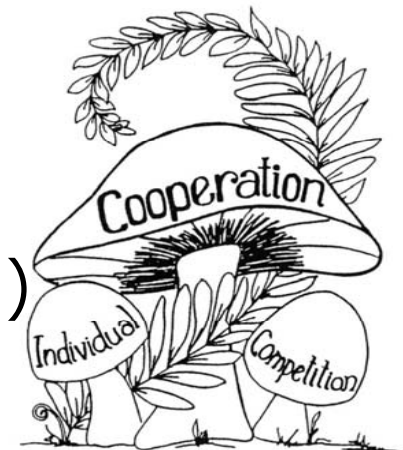
研修の見通し

1. ~~グループ討議の環境作り~~
2. ~~協同によるグループ討議~~
3. ~~協同による意思決定~~
4. ~~グループ討議の実践~~
5. ふりかえり



5. ふりかえり（二重のふりかえり）

- 課題：研修の学び、グループ活動をふり返る。
 - 学んだ内容の中で、もっとも印象に残っている内容を一つ紹介する。
 - グループで学んだ感想を述べる。ともに学んだ仲間感謝する。
- 方法
 - 個人思考（1分間）
 - 集団思考（1分×6:③がタイムキーパー）
 - 技法“ラウンドロビン”



これからの学習のために

- ❖ 協同学習ワークショップ（ベーシック、アドバンス）
 - ❖ 日本協同教育学会：
<http://jasce.jp/index.html>
- ❖ 書籍
 - ❖ ジョンソン他（2001），『学生参加型の大学授業』，玉川大学出版部。
 - ❖ ジェイコブズ他（2005），『先生のためのアイデアブック：協同学習の基本原則とテクニック』，日本協同学会。
 - ❖ バークレイ他（2009），『協同学習の技法：大学教育の手引き』，ナカニシヤ出版。
 - ❖ ジョンソン他（2010），『学習の輪』，二瓶社。

-
- ❖ とともに学べたことに感謝いたします。
ありがとうございました。



岩田好司